

令和5年2月11日

パリっ子様

2022年日本人会「川柳パリ会」最秀逸句選出について

いつもお世話になっております。
また、お耳で、紙面で、いつもお目にかかっております。
福岡県大野城市から、そうそうです。

今回は、選句にお声掛け頂き、本当にありがとうございました。
わたし、これまでに互選以外に選句というものをしたことがありませんでした。
つまり、**初めての経験**ということになります。

やはり、普段、投句して選ばれている立場としては、その句に込めた思いというものが、十二分に分かっていますから、選ぶ方の気持ちになるというのは、こういう機会でもないと中々分からないものです。
厳正に、そして**セクシー**に、選句させて頂きました。

「とりあえず、まず、全句見てみよう」まず、前置きは全部飛ばして、全句読んでみました。
??意味が分からない、イメージがわからない句がいくつかありました。

「EMS、ジレジョン…何ですと？ s a u f 給料…？特殊な給料？賞与？」
あ、福岡じゃダメだ、**パリの風**を感じないと。

いろいろ調べながら、一応全部、理解しました（正しく理解できているか分かりませんが）。

また、全体として「季節に統一感がないな」と初見で思いましたが、それもそのはず、年間の秀逸句などを集めたものだったのですね、なるほど。

普段、評価される方は基本**おまかせ**ですから、気が楽ですが、評価する方は大変緊張します。
自身がプレイヤーでもあるだけに。
タケシ師匠の苦しみもよく分かりました。

さて、それでは、そうそう選、発表したいと思います。

- 1 名前 そうそう (本名 神矢 直樹)
- 2 もっともいいと思った句の番号を一つ
(9) どこまでも切れずに伸びる欲の皮
- 3 次にいいと思った番号の句の番号を四つ
 - ① (33) パリ祭で踊った彼が亭主です
 - ② (29) ジレジョンヌ終わればコロナとウクライナ
 - ③ (32) まな板の魚と目が合い後ずさり
 - ④ (28) 日本妻=大和撫子大幻想

4 候補の句・選んだ句に対するコメント

個別には、後述しますが、選句にあたってのポイントとして、

A◎仲畑流～チャーミングであること

B○そうそう流～状況が目によりありと浮かぶこと

C○在仏日本人会～日本とフランスをつなぐ架け橋となっていること

を基準としました。

上記2の秀逸句につきましては、フランスとは関係ないものですが、基準のA、Bに照らし、チャーミングで、目にその映像が浮かんで離れなかった。その画が目によりありと焼き付いて離れなかったので、選びました。

5 次点 (無得点ですが)

- ① (17) 新しく孫の齒形が脛に付き～初孫ちゃんですかね～真新しくも嬉しいアザ
- ② (26) ここもダメ給油の旅は三千里～物価高も、給与に反映されればそれで良いのに
- ③ (18) 関税が中身を越えるEMS～あーなるほど～それは気付かなかった～

6 その他～フランスの風を感じて

新婚旅行は、イタリア (ローマ) でしたが、フランスには行ったことがありません。

フランスについてじっくり思い起こしてみると、私が気に入っている YouTube 動画の中に、フランスで撮影した (であろう) ものが二つありましたので、下記のとおり参考までご紹介します。



https://www.youtube.com/watch?v=FwC_gJUXJBs

【MV】 →Pia-no-jaC← / 台風 [Typhoon]



<https://www.youtube.com/watch?v=Ra1jKaZbktc>

エッフェル塔の前で脳漿炸裂ガールを踊ってみた 【リアルアキバボーイズ】

(9) どこまでも切れずに伸びる欲の皮

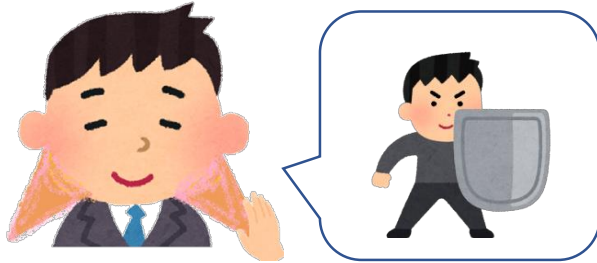
日本語で「皮」といえば、「欲の皮」と「面（つら）の皮」が想起される。

恐らく、この川柳のモデルとなったこの方、面の皮は厚く、固く、どんな逆風・困難にも負けないくらいの鉄面皮、「鉄のカーテンがある」と言ったのは、東西冷戦時代、時のイギリス首相ウインストン・チャーチルであるが、東西を分け隔てるほどのツラの厚さにして世界中が驚いたのであった。また、そして欲深く、どこまでも伸びていく柔軟性も併せ持つのであった。（以下、落語風に）

「おいおい、お前、ちょっと頬桁（ほおげた）のツラの皮、両手でひっぱってみろよ」

「うわ！固い！そして伸びる！」「あーらら、とうとう地面に着いちゃったよ」

「お！お前、何か、盾のようになってるぞ」



(33) パリ祭で踊った彼が亭主です

タレント三宅裕司さんの奥様、その発言が面白いという話を聞いたことがあります。

新たにペットを飼い始めようと家族で話が出た際、その奥様「ペットを飼うのがどれだけ大変か分かってるの？最終的に誰がお世話すると思っているのよ」と言いたかったのでしょうか「誰が始末すると思ってるのよ」と言ったとか。殺しちゃうの？

また、別の話。あるとき、離れたところにいるご主人（三宅さん）を他人に紹介する際「あそこに立っているのが主人です」と言おうとして

「アソコが起っているのが主人です」と言い間違えたとか。嗚呼一字違い。

ともあれ、そうですよ、パリ祭である時、あの日のパリ祭で、そう、たまたま手をつなぎ、偶然踊った、そして同時に、心も躍ってしまったあの夜。そう彼、それが今の主人なの。

(29) ジレジョンヌ終わればコロナとウクライナ

ジレジョンヌ、そうよ、素敵な花、黄色で鉾物がとれる高い山にしか生えていないの。

その香りはそうね、日本の有名な花で言うと、キンモクセイのような香りだけど、そこまで強くはない。大きさはそうね、2cmくらい、一本の株に2～30個の花が咲き、それだけで、花束のように見える可憐な花。別名「天使の置きわすれ」とも言われているの。…なんて、そういったものかとワタシ想像していたところ、ネットで調べると、

・ 警官隊と衝突する民衆 ・ 燃えさかる車 ・ デモ行進する人々

などの画像が。

災難続きだ、と言いたかったのですね、失礼しました。

(32) まな板の魚と目が合い後ずさり

フランスの魚は大きくて有名だ。

市（いち）には、毎朝、地中海でとれたばかりの魚がズラリと並ぶ。

敷き詰められた氷の上に、横たわる魚たちは、まだ生きていたかのように見える。

小学校に入ったばかりの兄弟は、やんちゃ盛りで、店主の目を盗んでは、その氷の粒を投げ合っている。「こらこら、止めなさい。」と怒る母親。

「今日はこの魚にしましょうね、これをください」

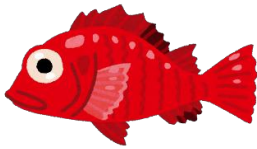
家に持ち帰り、まな板の上、魚の尾をつかみ持ち上げ、ゆっくりとその身を横たえる。

「お父さーん、ちょっとこの頭のところ、包丁入れてくれない？固くて刺さらないの」
飛んできた恰幅の良い父親、どれどれと、包丁を構えた瞬間、

「おおっとこいつ、まだ生きてるぞ」

そう。魚は、この瞬間を待っていた。ともすれば、逃げられるとも思っていた。

しかしそこは、まな板の上。父親を驚かせるにとどまったのだった。



(28) 日本妻＝大和撫子大幻想

ねえねえ、日本人の女性というの、大人しくて、なんでも夫のことを聞くんだろ。あと、東京の大企業は、ニンジャを使って他社の情報を盗むそうじゃないか。

ほら、この前も、フセイキョウソウ…法とかいう、小難しい名前で、人が捕まっていた。

会社に持って行く菓子の下に、大判・小判をたくさん敷き詰めて贈り物をするらしいじゃないか。どうする、今度、ニッポンの商社にプレゼン行くときは、お土産何にするんだ。

マカロンの間に、1ユーロコイン挟めばいいのか？

いやいや、ユーロだと、向こうで換金しなきゃいけないから、“円”にするんだ。



イメージ先行でドンドン決めてしまうと、こういうことになってしまい、失敗のもとになりますから、よく下調べをしましょう。

そうそう、インターネットの情報はウソがたくさん混じっているから、…十分気をつけて。

と言うわけで、以上、5句から、ショートストーリーを作ってみました。

仲畑流の句もそうですが、だいたいどの句からでも、400字詰め2枚は作ることができると思います。深い、とても深いのです、どの句も。

最後に、今回「川柳パリ会」の皆様、ますますのご清栄とご発展をお祈りして、私の選とさせていただきます。本当にありがとうございました。そうそう